頭の上の柿の木

むかし、むかし貧乏なじっちゃいてナ、ある日あてもなく歩いていたら、柿の種一つぶ拾ったとさ、だけどその種植えるにも屋敷がない。そこでじっちゃ思案して、頭のてっぺんに植えただって。そして八年たったら柿の実がなったわ、なったわ、もいで食べたら甘いときている。じっちゃは毎日「柿のもぎたていらねんしか」と売って歩いたとよ。そしたら柿売る商人たちが、じっちゃのこと憎んでな、柿の木切ってしまって。じっちゃ商売のもと取られてしまったもんだから三年ばかりおんえ、おんえと泣いていたと。そのうち柿の根っこ腐ったらそこへきのこが生え出たとさ、まえたけ生えるに、しいたけ生えるに、はつたけ生えるに、まつたけ生える。じっちゃ、きのこで大した金もうけして、ふところほくほくよ。そしたら岩見山内のきのことりたちが、じっちゃのこと憎んでな。頭の根こ掘ってしまたって。

こんどはきのこも取られない上、頭に大きな穴があいてしまった。さあ、じっちゃはまた商売のもとなくして、ためたお金をみんなつかわなければならないと困っちゃった。そしたらこんどは大雨が降ったんだって。じっちゃが外へ出たらたちまち頭の穴に水がたまって鱒（ます）が来るわ、鮭（さけ）が来るわ、やつ目がくるわ。

トッピンパラリのプー（長野高橋直子四年）